

中堅中小企業の競争優位を創るIT戦略誌

Nikkei Advantage

日経アドバンテージ

5

2003

創刊号

独自性の追求が自立を生む

IT戦略企業厳選20社 成功の検証

歴史に見る情報活用の知恵

トウワン(メガネ小売チェーン)

給与明細まで公開する究極のガラス張り



大三川 彰彦 氏

トレンドマイクロ株式会社
日本地域セールス&マーケティング総括本部長



田中 隆雄 氏

日新建工株式会社 専務取締役

トレンドマイクロでは「次々と出現する新種のウイルスに迅速・的確に対応するには、ウイルス対策ソフトウェアの導入だけでは不十分」との観点から、ウイルスの自動予防措置から検出・駆除、そして復旧・分析・事後対策にいたる包括的なセキュリティ戦略を提唱すると共に、様々な業界への情報提供活動を展開しようとしている。その第一歩となるのが、建設業界のネットワーク対応を推進する日新建工とのコラボレーションだ。そこで両社の代表に、日本の企業、特に中堅中小企業におけるセキュリティ問題のポイント、求められる対策について語っていただいた。

■ 大三川 彰彦 氏 プロフィール

1982年、日本大学商学部経営学科卒業後、日本デジタル イクイップメント株式会社(旧日本DEC)に入社。1992年にマイクロソフト株式会社へ入社。2000年5月、執行役員となる。2003年2月、トレンドマイクロ株式会社に入社。日本地域 セールス&マーケティング統括本部長に就任、現在に至る。

■ 田中 隆雄 氏 プロフィール

1971年、日新建工株式会社工務部に入社。2002年、同社が1996年より運用してきた社内業務のデジタル・ペーパーレス運用のノウハウ、「業務システム(G.system)2002」をマイクロソフト株式会社と共に全国的に紹介、他企業における導入を支援。社団法人全国建設産業団体連合会が主催する「CALS/EC 電子入札・電子納品実体験セミナー」「業務のIT化セミナー」を監修すると共に、全国的に講演を行っている。JACIC CALS/ECエキスパート / ISO9001・ISO14001 登録審査員補。

システムセキュリティの包括的なウイルス対策

システムセキュリティの確立には、企業の意識改革が不可欠

大三川: 総務省が昨年秋、約3000社の中小企業を対象に行ったアンケートによると、なんらかのセキュリティソフトを導入していると答えた企業は77%となっています。しかしその実態は、一度ウイルス対策ソフトウェアをインストールして、あとはそのままという企業がほとんどではないでしょうか。世界中で毎日新しいウイルスが10種類も作りだされているといわれる今日、ただ製品をインストールしても、常に新型ウイルスに対応したパターンファイルをネットワークからダウンロードしていなければ、いざというときに対応できないのですが、そうした意識を持っている企業はあまり多くないようです。

田中: セキュリティに限らず、企業のシステム化全般に言えることですが、大切なのはまず人の意識ですね。どの製品を導入するかといったことはそのあとに来る問題であって、まず最初に解決しなければならないのは、その企業が担当者レベルだけでなく、会社全体でいかに問題意識を持つかです。

日本の企業は個人レベルの意識はかなり高度で、知識もあるのですが、会社全体が統一した意識を持って解決に当たれるかということになると、これは別問題で、特に中堅中小企業の場合、経営者の意識というのが大事だと思います。

ユビキタスネットワーク時代だからこそ重要な業界単位の取り組み

大三川: 日新建工さんは建設業界の一企

の確立には、企業の意識改革と 対策が不可欠。

業でありながら、自社の先進的なシステムを業界に普及させるという活動に取り組んでいます。こうした活動の原動力になっているのは何なのでしょう？

田中: 一言で言えば危機感です。建設業界は今非常に厳しい状況にあり、システムを推進して経営の効率化を図らなければ生き残れないにも関わらず、多くの企業が対応できていない。特に今年から公共事業に電子入札・電子納品が導入され、設計図のやりとりから決済までネットワークを通じて行うCALS/ECに対応できない企業は必然的に排除されてしまうという状況です。生き残るためには、個々の企業うんぬんではなく、業界全体が時代の要求に対応していかなければならない。そこで業界の団体と協力して年間何十回というセミナーを開き、啓蒙活動を行っているわけです。

大三川: ユビキタスネットワーク時代のビジネス形態に業界全体が対応していくことを迫られているわけですね。そこではセキュリティも重要な問題になると思いますが。

田中: 政府や自治体、公共団体、そして建設業界全体を結ぶネットワークですから、そこで1つの会社のミスからウイルスが蔓延してしまうといったことになったら、それこそ被害ははかりしれませんし、深刻な補償問題にもつながりかねません。

私どものセミナーは単なる講義ではなく、45台のPCを使い、「見て、触って、体感できるセミナー」というところが大きな特色になっています。1日がかりのセミナーの中で、1時間でもセキュリティの時間をとって、その重要性和対応策についてトレンドマイクロ様からお話をさせていただきたいと考えています。

トレンドマイクロ エンタープライズ プロテクション ストラテジー (Trend Micro EPS)
ウイルス発生、感染拡大から終息まで、一連の対応を予防的に管理し、企業を包括的に守るウイルス対策戦略



「ウイルスを駆除する」から 「企業を包括的に守る」へ

大三川: 現在当社では、個々のウイルス対策製品を提供するだけでなく、様々な製品を効果的に活用して、トータルに企業をウイルスから守る「トレンドマイクロ エンタープライズ プロテクション ストラテジー (Trend Micro EPS)」というソリューションを提唱しています。これまでのウイルス対策はともすればウイルスの検出・駆除のみになりがちでしたが、Trend Micro EPSではその前段階の情報収集や予防措置からウイルス検出・駆除後の復旧、その分析と事後対策までをトータルにサポート、各種サービスを提供します。しかもすべてのプロセスと様々な製品群をTrend Micro Control Managerで一元管理できますから、ユーザは煩雑な作業に手間取ることなく、被害を最小限に留めることができます。

田中: それはユーザ側にとって非常にありがたいシステムですね。セキュリティの理想は、バックグラウンドでウイルスの感染を防いでくれて、ユーザにその存在を感じさせないようなシステムですから。

ブロードバンド時代こそ 中堅・中小企業が競争力を発揮 するチャンス

田中: 様々な方のお話をうかがっていて

痛感するのは、やはり中堅中小企業もITにもっと投資すべきだということです。建設業界には建設機械には惜しげもなく投資しても、ITには二の足を踏んでしまう経営者が多いのですが、ハード、ソフトはもちろん、これからは人の育成にも思い切って投資しなければ、生き残っていけないでしょう。

大三川: 今の日本ほど一気に高品質のブロードバンドが低価格で使えるようになった国はありません。私たちは世界に先駆けて最新のITを体験し、そのスピード、情報量を活用できるわけです。これを効果的に活用すれば、日本の企業は世界で戦うための競争力を身につけることができるでしょう。特に日本の中堅中小企業にとっては千載一遇のチャンスだと私は思います。トレンドマイクロも中堅中小企業に役立つ技術を提供していきますので、是非このチャンスを前向きにとらえて、さらに躍進していただきたいと思います。



●お問い合わせ

トレンドマイクロ株式会社

〒151-8583

東京都渋谷区代々木2-2-1 小田急サザンタワー10F

TEL:03-5334-3650(営業代表)

E-mail:sales@trendmicro.co.jp

URL:http://www.trendmicro.co.jp